

工事現場の様子……その前に

その特色をもう一度



特色 1

中庭を中心に、2階部分が宙に浮いているピロティ（東側）や膜屋根付きのブリッジ（南側）、中庭に向けて大きく開口する可動壁を備えたホール（西側）が一体となって、さまざまな用途に使える夢あふれる構成です。



特色 2

防音の音楽室やスタジオ、災害時にも活躍する調理室、野点もできる屋外デッキと連結した和室、鏡張りでダンスなどに最適な軽運動室、さまざまな広さに変更できる会議室、展示壁として活用できる廊下、子どもたちに大人気のボルダリング・ウォールなど特色ある諸室を備えています。



特色 3

ホールはおよそ 350 席の電動可動席や約 140 席分の客席迫りを備え、収納すると 500 m²を超える平土間（平らな床を備えた空間）になります。



特色 4

公民館諸室はもちろん、ホール内や楽屋廻りなども含めて、全てバリアフリー仕様。ホールには県内でも珍しい難聴者支援システムを備えています。



特色 5

太陽光パネル、地中熱利用エアコン、雨水の中水（トイレなど）利用などを備え、町民の皆さんの環境学習にも役立てます。



来年夏のオープンに向けて 着々と進む工事

模型や客席、バーチャルリアリティで完成をイメージ

邑楽町中央公民館・第1回現場ワークショップ

現場は、着工から進めること5か月半。全員がヘルメットをかぶって、いざ内部へ



中央公民館の模型。今回のワークショップのために造ってもらいました。平面図ではイメージしきれない部分も、このおかげでだいぶ全容が把握できました



▲ホールの座席を展示し、実際に座ってもらいました。50cm幅の座席が多い中、広くゆったり座れるように52cmを採用します



▼午前1回、午後2回の計3回に分けて行われた今回のワークショップ。説明を聞く姿勢から関心の高さがうかがえました

町立図書館南で進んでいる中央公民館建設工事。平成30年4月末の完成を目指して、順調に進んでいます。5月には邑楽町公民館から職員や書類などの引越しが始まり、備品の整備や舞台機材の調整などに3〜4か月必要になることから、遅くとも9月初めにはオープンを迎える予定です。

中央公民館建設工事の第1回現場ワークショップ（現場見学会）が5月20日、町と工事を担当する特定建設工事共同企業体の共催で開催されました。

冒頭、あいさつに立った金子正一町長は「町民の悲願である中央公民館は、町民に親しまれ町民サービス向上を実現する夢の施設。昨年12月に着工し、来年夏のオープンに向けて順調に工事を進めています。現場見学会は貴重な機会になると思っています。場内では安全管理を徹底していますが、十分に注意しながら見学してほしい」と呼びかけました。

続いて、設計と監理を担当している（株）総建から趣旨と設計概要の説明がありました。

その後、参加者は現場に入り、説明を聞きながら、現場の西側に位置するホールを中心に見学。完成後には見られないホールの客席迫りや軽運動室の敷設箇所を見たり、バーチャルリアリティで三次元の完成図を見たりしました。



楽屋廻り

まだ完成が見えにくい場所。材料などが整頓され、足場もきちんと確保。工事をスムーズに進めるポイントです



昇降迫り

舞台側の客席140席分には上下する仕組みを施します。実際に上下するのは約70cmほどでも、その昇降システムを機能させる装置を設置するために約3m近く掘り下げています

空のホール(中庭)

施設機構の全体を見渡せて、利用勝手のカギをにぎる場所。完成したらきっと驚いてもらえます



中央公園向き(南)と役場庁舎向き(東)の二方向が建物の正面



軽運動室

面積は約70㎡。小学校の普通教室のおよそ1室分です。床下には衝撃を吸収する仕組みを備え、体育館のような衝撃吸収性を発揮する二重床構造になります



舞台裏通路

向かって右側が楽屋廻りで、左側が舞台。舞台とは、まさに晴れの舞台。舞台裏はその場所に最も近い場所です。出演直前の緊張感が伝わってくる……には、まだ早いようですね(笑)

ピロティ

天候や時間に左右されない活動スペース。面積は約210㎡。小学校の普通教室のおよそ3室分です



今回の特集はいかがでしたか？ワークショップに参加した人も参加できなかった人も、工事の現状と中央公民館の未来に思いをはせてくださったのではないのでしょうか。

邑楽町教育委員会では、これからも広報おうらで工事の状況や開館後の事業についてお知らせをしていきます。また、町民の皆さんに直接

一緒に夢を語り合いましょ

現場を見ていただくワークショップも、完成前と完成後にそれぞれ開催を予定しています。広報おうらやホームページにご注目いただき、日程が合うようなら、ぜひご参加ください。そして、さまざまな活用法や利用の仕方、やってほしい事業などについて……



昨年12月10日の起工式以降、工事は大きな事故もなく進んでおり、建築工事のおよそ20%を終えたところです。工事を効率的に進めるために、現在は現場全体を4つの工区に分けています。通常では立ち入ることのできない工事現場に入らせていただくことで、作業への理解を深めていただけたと思います。引き続き、ご協力をお願いします。

建設工事の現場代理人を務める
大塚攻悦さん(株徳川組)



現場で毎日行われている朝礼。ラジオ体操でその日の自分の調子を確認したあと、作業内容や注意事項を全員で確認しています

和太鼓を習っています。今日はお母さんとお姉ちゃんも一緒に参加しました。鉄筋がたくさん入った太い柱はとても頑丈そうで、説明してくれた人も「地震に強い建物です」と話していました。バーチャルリアリティでは屋根や照明、観客席が見えました。この場所で太鼓が叩けると思うと楽しみでワクワクします。完成がとても待ち遠しくなりました。



ワークショップ(第1班)に参加した
鈴木琴葉さん(十三軒・27区)



特殊なゴーグルをかけると、まるで完成したホールの中に立っているような感覚に。よりリアルな空間をイメージすることができました

普段は歌や踊りのサークルで活動しているよ。今日は歌の仲間と一緒に参加した。舞台上立ってみると広さがよく分かったよ。「一人で歌うには少し広すぎやしないか」なんて冗談を言う仲間もいてさ。早く歌ってみたいね。完成がますます楽しみにになった。現場もきれいに整頓されていて感心した。いい工事してくれば、いい建物ができるよな。



ワークショップ(第2班)に参加した
横田帝司さん(上下西宿・7区)



コンクリートの基礎打ちが終わり、壁も立ち始めた木のホール。建物の形、大きさ、広さ、高さを体感することができました